ウランバートル宣言

2018年9月14日

第10回IPPNW北アジア地域会議
第3回IPPNW北アジア・南アジア合同地域会議

第10回IPPNW北アジア地域会議および第3回IPPNW北アジア・南アジア合同地域会議が2018年9月13日、14日にウランバートルにて開催され、オーストラリア、北朝鮮人民共和国、インド、日本、ネパール、オランダ、モンゴルから代表が集った。われわれ北アジア・南アジアのIPPNW支部代表は健康を守るための緊急性の高い義務として、平和および核兵器廃絶に取り組むことをここに誓う。われわれは世界各地で進行中の紛争について深く憂慮する。これらの紛争はいつでもより大規模な戦争に発展しかねず、結果として核兵器使用につながる可能性がある。核兵器のいかなる使用もすべての生命に壊滅的な影響を及ぼし、それに効果的に対応することは不可能であろう。それゆえこれらの兵器は完全に廃絶されなくてはならない。

われわれのアジア大陸は多様性が高く、天然資源も豊富である。しかし社会経済の発展という点では健康、教育、飲料水の入手、衛生、その他の基本的ニーズを含めて、人々の間には明らかな格差がある。これらの格差を埋めるためにわれわれは大量の資源を必要とする。この地域内の各地で多くの資源を核兵器を含めた兵器の拡散に費やしていることは悲劇である。中国は、現在、世界第 2 位の軍事予算を有し、世界第 3 位の武器輸出国である。インドも武器輸出国となることに意欲的である。パキスタンもまた自国の GDP のかなりの割合を兵器に費やしている。

アジアには、世界 9 ヵ国のうち 5 ヵ国と最も多くの核兵器保有国が存在している。すなわちインド、中国、パキスタン、北朝鮮、イスラエルであり、ユーラシア大陸には核兵器国ロシアも存在する。日本では 1945 年に、その他多くの地域では核実験のために、核兵器の影響に苦しめられてきた。イラクとシリアを含めてわれわれの大陸では劣化ウランの影響にも苦しんでいる。ウラン鉱山周辺住民に深刻な健康影響があるというエビデンスもある。特に中東で進行中の紛争、シリアやイエメンでの内戦、そしてインドとパキスタンの終わりのない緊張関係などは地域の平和にとって深刻な脅威である。

南北朝鮮関係における包括的で画期的な改善と進展を実現するための、そして朝鮮半島の平和な未来、共有された繁栄、自立した再統一をもたらすための一里塚として、われわれは板門店宣言を歓迎する。

われわれはシンガポールでの米朝共同宣言が、2 国間の数十年に亘る緊張と敵対心を克服し、朝鮮半島に永続的かつ強固な平和体制を築き、完全非核化により朝鮮半島を非核兵器地帯へ転換するというゴールを達成する歴史的な文書であると認識し、その迅速な履行を強く求める。われわれは朝鮮半島に平和、繁栄、再統一をもたらすため努力を行っている南北朝鮮の人々を支持する。これは核兵器のないアジア地域と世界の実現に大きく貢献するであろう。

すべての核武装国が非常に緊急の問題として核兵器を廃絶することは世界の保健にかかわる義務であるとともに法的な義務である。国連の核兵器禁止条約（TPNW）は核兵器廃絶の道をすべての国に示している。すべての国がその道を取るべきである。よってわれわれは以下を要請する。

・すべての核武装国が TPNW に参加し、自国の核兵器を廃絶すること
・小型武器拡散が査察されること
・平和を脅かす紛争を解決するためにすべての国が相互対話を行うこと
・兵器に費やされる資金を健康、教育、貧困軽減、再生可能エネルギー、開発のための資金に転用すること。

われわれは共有目標の追求のため、地域内の支部間交流と協力関係の構築を誓う。